

# 沙羅の樹文庫だより

NO. 197 (23年4月号)

23.4.2  
左: 広島城天守閣

下: 平和公園から  
原爆ドームを臨む



広島の新  
旧市電

## たんぽぽ

たんぽぽ とんで どこへゆく  
ぼくのおにわも のもすてて  
はるを はこんで どこへゆく

春になると、  
口ずさむ子どもの頃の  
うろおぼえの歌です・・・



本年も3密を避け予約制で開館しています  
2023年

4月15日(土)、16日(日)  
5月20日(土)、21日(日)

★5/21、若葉のころのおはなし会★

小さい人向け AM(10:30~11:45)  
大きい人向け PM(1:30~3:45)

6月17日(土)、18日(日)  
7月15日(土)、16日(日)  
8月19日(土)、20日(日)  
9月16日(土)、17日(日)

開館時間: 土曜日 13:00~17:00  
日曜日 10:00~15:00

子どものための読み聞かせ・おはなし会  
日曜日 10:30~11:00

おはなし沙羅・おはなし勉強会  
土曜日 10:30~12:30

〒413-0235 伊東市大室高原 7-122  
☎0557-51-3737 (090-6039-3782)

沙羅の樹分館ゆるかの里子ども文庫  
〒413-0232 伊東市八幡野 924-1  
☎0557-54-1910

開室日: 水曜日 13:00~15:00  
日曜日 10:00~15:00



てつのくじら(本物の潜水艦):海上自衛隊呉資料館

文庫あれこれ◆4月です、卯月です♥夏初月(なつはづき)ともいうそうです。以前は桜の開花は入学式と対になっていた気がしますが、今年は特に早く、4月2日には、もう青葉若葉が伸び始めていました。◆でも月初、西の方が早いと思って行った広島はまさに真っ盛り。あの元安川を挟んで原爆ドームの向こう岸では家族が三々五々楽しそうに花見をしていました・・・◆4月も3分の1が過ぎました。入学式もすんで新1年生が元気に通学しているのを見ます。我が家も、2番目の孫(娘)と4番目の孫(息子)がそれぞれ大学、中学に進学。希望に胸膨らませて通い続けて欲しいものです。◆文庫のAちゃん姉弟も、Iちゃんも、SちゃんH君もみんな親元を離れて、新たな環境に楽しく順応できますよう♥◆Sちゃんの馬路村で、



二輪草

地方に目が向くようになって、数日前の日経に人口最小 170 人の自治体「青ヶ島」(東京都)の存続問題の記事に目が止まりました。遙か昔の小学校時代、左幸子主演の映画「青ヶ島の子供たち-女教師の記録」がありました。私が通学していた小学校が、主人公の初めての勤務校で、左幸子が朝礼台で、新任の挨拶をするシーンを撮りました。出来上がった映画もみんなで観て、青ヶ島の大変な暮らしを知りました。今でも、船着場が整備されておらず、波が高いと定期船が接岸できないとか。鍵を握るのは学校だとか。いつか無人島になってしまうのでしょうか。◆東京では、近所を歩くと藤の花、花みずき、黄モッコウ、庭先には、色とりどりのチューリップ、何とツツジも、ボタンも。春爛漫です。◆週末の大室では、文庫の入り口で、大好きな白モッコウが迎えてくれるでしょうか



三時草

◆今朝の新聞に、伊東市在住の富岡多恵子さん逝去の報が。◆ポップ・ディランが来日しています。彼の絵本ご存知ですか。◆分館・ゆるかの里子ども文庫が開館 1 年を迎えました。根付くにはまだまだ時間がかかりますが、応援していただけますよう ◆室内のマスク着用も個人任せになったようですが、文庫内では、もうしばらく着用をお願いいたします。(西村)

★花の写真は茨城のSさんから。



## 『人形の旅立ち』の地から⑥小泉八雲と妻セツ 林良子

私が、小泉八雲の偉業に驚いたのは、石井桃子の『エッセイ集』にある「子どもにうったえる文章」を読んでからのことです。石井桃子は、「八雲が帝大でした講義を読み、衝撃といってもいいほどの感銘をうけた」として、八雲の言葉「鋭敏な視力と聴力をもって対象を把握し、誇張なしに書かれた文章は力に満ち満ちてい、「描写はいらない」等を紹介しています。また、「八雲の言ったことは、子どもの文学に本当に当てはまる」と尾崎真理子にも語っています。（『ひみつの王国 評伝石井桃子』）

『小泉八雲東大講義録』（池田雅之訳）は、私には歯が立たないのではないかと心配しましたが、八雲が学生達の心に響くように話す姿を思い浮かべながら、興味深く読みました。

さて、八雲には、たくさんの名前（呼び名）があります。この日本名は、小泉セツと結婚し帰化した時につけられました。小泉はセツの名字、八雲は、出雲に係る枕詞で『古事記』のなかの詩歌からとられたそうです。

セツは士族の娘で慶応4年、松江生まれ。明治元年生まれですから、士族没落の時代です。極貧の暮らしのなか、家族を支えるために、八雲の身のまわりの世話をする住み込みを始めました。セツには、語り部の才能があり、聞き覚えていた山陰地方の怪談を八雲に語るようになります。八雲にとって、かけがえのない存在となりました。

八雲が教師という仕事の上に膨大な著述ができたのは、ともに家庭を築いたセツの存在がかけがえありません。セツの書いた回想『思い出

の記』によると、八雲は、セツが本を読み上げたのでは満足せず、覚えて自分のものにして語るよう頼んだとのこと。東京では、セツは神田の古本屋で諸国の伝説や昔話を探し、覚えて語ったのだそうです。『思い出の記』の「耳なし芳一」のくだりなど、臨場感にあふれ、物語の世界に入り込んだふたりの声が聞こえてくるようです。

今、松江市では、強い女性セツに焦点を当てたドラマや映画化の期待が高まっています。私はエキストラの募集があれば、応募しようと目論んでいます。いえいえ、そっちはなく、作品を口で伝え耳に届ける方が本来ですね。ともあれ、八雲の作品が読みつがれ、語りつがれていくことを願っています。

### ↓ ハーンがダブリンで母と最初に住んだ家

現在は、TOWN HOUSE という名のホテル(B&B)として営業中。入口では、八雲の写真や資料を公開。



ハーンは2才で母とギリシャから、ダブリンへ移りましたが、4才の時、母はギリシャへ帰り、以後、会うことはなく、生涯、面影を慕い続けたといわれます。赤い看板の中央には、旅行かばんを提げた八雲の旅姿が描かれています。

撮影:2014. 8(林)

### 徒然なるままに・・・ (さ・ら)

★連れ合いとの旅はしばらく休止?ですが、2女が、春休みの孫2人(長男の息子)と私を広島1泊旅へ連れていってくれました(ポイント使用のため、行き先はこちらでは決定できない4択の一つ)。広島は昨秋行ったばかりでしたが、孫たちとの旅はまた別の楽しみあり、でした。★まずは、義母の実家の墓参(寺町というところにお寺さんがかたまっています。連れ合いは、原爆の2日前、疎開して助かりましたが、祖父は爆心地から900mの自宅で跡形もなく亡くなりました)。★4月から中学の上の孫は、鉄道大好きで、路面電車にも関心あり、1日乗車券で色々なところへ行きました。「広島の市電は他の都市の古いのを使っています」と孫の言う通り、神戸市電と貼ってあるのもありました。★原爆ドーム、平和記念館にも行きました。『はだしのゲン』も読んでいて、12歳、9歳それぞれに思いを深めたようです。

★2日目は、呉の大和ミュージアム、鉄のくじら館(実際の潜水艦艦の中に入りました)、艦船巡りをしました。呉港に浮かぶ、目下造船中の世界最大のコンテナ船や、自衛隊の様々な用途で使われる自衛艦をたくさん見ました。砲丸を40砲一度に発射できるとの説明にすごいなと思う反面、何でこんなものが必要なんだろうとも思いました。また、自衛隊の仕事で、掃海という言葉を知りました。日本近海のみならず、海だけでもものすごい数の機雷が沈んでいるとか、排除作業に携わる人々も無事ではないとか。大和ミュージアムでは、戦艦大和・長門・陸奥、などを書いた阿川弘之、吉田満、吉村昭3人展をじっくり見ながら、私たち人間というものを考えちゃいました。★次女の選んだ食事もグーで、昼食の牡蠣(焼き、蒸し、フライ、牡蠣飯)全部満足。呉の夕食寿司屋さんも、孫たち大喜びで新鮮なたねのお寿司とサザエの刺身に舌鼓。子どものいない次女はこうして甥や姪と楽しんでいるのだなあ。車から降りれば、いつの間にかどこかへ走ってってしまう孫たちにヒヤヒヤしながら、娘の娘たちと違って滅多に会えない孫息子たちとの旅は、最近しょぼんとしていた私に元気をくれたようです。

## 23. 4月に入る子どもの本

### 絵本

『ちきゅうのかいだん』(松岡たつひで作絵 金の星社 2023) ID13882

『はるのひ』(小池アミイゴ作絵 徳間書店 2023) ID13883

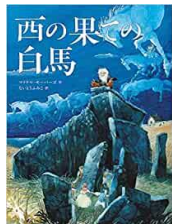
### 読みもの

『そんなのうそだ!』(ジーン・メリル作 小宮由訳 岩波書店 2023) ID13886 ★低学年向き

『ブックキャットーネコのないしょの仕事!』(ポリリー・フェイバー作 長友恵子訳 徳間書店 2023) ID13885 ★中学年向き

『西の果ての白馬』(マイケル・モーパーゴ作 ないとうふみこ訳 徳間書店 2023) ID13884

『ユキとヨンホー白磁にみせられて』(中川なをみ作 新日本出版社 2014) ID13887



... ★ ... ★ ... ★ ...

## 松岡さんの本(文庫になかった)

### 絵本

『うさこちゃん おばけになる』(ディック・ブルーナぶん/え まつおかきょうこやく 福音館書店 2010) ID13890

『うさこちゃん がっこうへいく』(ディック・ブルーナぶん/え まつおかきょうこやく 福音館書店 1985) ID13889

『ねずみのいえさがし(ねずみのほん1)』『ねずみのともだちさがし(ねずみのほん2)』『よかったね ねずみさん(ねずみのほん3)』(ヘレン・ピアスさく まつおかきょうこやく 童話館 1984) ID13891~3



『ペニーさん』(マリー・ホール・エッツ作絵 松岡享子訳 徳間書店 1997) ID13899

『まつぼっくりのぼうけんー川といっしょにたびをした五つのまつぼっくりのおはなし』(ブリギッテ・シジャンスキー文 バーナデット・ワッツ絵 松岡享子訳 瑞雲舎 2008) ID13898

『おふるだいすき』(松岡享子作 林明子絵 福音館書店 1982) ID13897

『くまのコールテンくん』(ドン=フリーマンさく まつおかきょうこやく 偕成社 1975) ID13896

『わたしのろばベンジャミン』(ハンス・リマー文 レナート・オスベック写真 松岡享子訳 こぐま社 1994) ID13895

... ★ ... ★ ... ★ ...

... ★ ... ★ ... ★ ...

## 入れました!!

### 読みもの

『あたまをつかった小さなおばあさん がんばる』(ホープ・ニューウェル作 松岡享子訳 降矢なな絵 福音館書店 2019) ID13888

『がんばれヘンリーくん』(ベバリイ・クリアリー作 松岡享子訳 学研 1968) ID13894

★松岡享子さんを知っていますか? 左の本たちの他にもたくさん、外国の子どもの本を訳したり、お話をたくさん書いてくれました。文庫にまだまだあります。西村おばさんの大学の先輩で、学生の頃、可愛がっていただきました。昨年亡くなりましたが、文庫ではおはなし会をやるでしょ? みんなに、みんなのお顔を見てお話を伝えて一緒に楽しむことを勧めてくれた人でもあります。そして何より、本を読む楽しみを教えてくれた人です。読んでみてください。

... ★ ... ★ ... ★ ...

## 読んでみました。

『そんなのうそだ!』: 字が読めるようになった人に。ミャンマーという国のお話。なまけもののブタとサルとキツネ、スポーツカーでさっそうとやってきたイヌと、お話でしようぶします。はてさてかったのは?!

『ブックキャットーネコのないしょの仕事!』: 猫好きの君に! 本当にあったことの様ですよ♥

『西の果ての白馬』: 作者のモーパーゴという人は戦争にあった人々のお話を心沁みるように書く人ですが、この本は、短編五つが繋がった楽しくて不思議なお話。まだそこそこに妖精たちがいる? イギリスの西端・コーンウォールが舞台。

『ユキとヨンホー白磁にみせられて』: 日本の素晴らしい陶器磁器は、中国や朝鮮の人々に助けられて、時間をかけて、出来上がったのですね。



## 23. 4月に入る大人の本

### フィクション

『開墾地』(グレゴリー・ケズナジャット著 講談社 2023) ID18968★日本語で書かれている。

『花の埋もれる』(彩瀬まる著 新潮社 2023) ID18969

『パレードのシステム』(高山羽根子著 講談社 2023) ID18970

『ギフトライフ』(古河真人著 新潮社 2023) ID18971

『また会う日まで』(池澤夏樹著 朝日新聞出版 2023) ID18972

『成瀬は天下を取りに行く』(宮島未来著 新潮社 2023) ID18973

『キツネ狩り』(寺島曜著 新潮社 2023) ID18974

『あかあかや明恵』(梓澤要著 新潮社 2023) ID18975

『チングス紀16 蒼氓』(北方謙三著 集英社 2023) ID18976

『茜唄 上』『茜唄 下』(今村翔吾著 角川春樹事務所) ID18977 ID18978

『黄色い家』(川上未映子著 中央公論新社 2023) ID18984

『ソクチョの冬』(エリザ・デュサパン著 原正人訳 早川書房 2023) ID189

『女の子たちと公的機関-ロシアのフェミニストが目覚めるとき』(ダリア・セレンコ著 高柳聡子訳 エトセトラブックス 2023) ID18980

『シベリアの森のなかで』(シルヴァン・テッソン著 高柳和美訳 みすず書房 2023) ID18985

## 沙羅の樹文庫だより 197-2

### エッセイ ほか

『完全版 十字路が見える 3 南雲を指して』(北方謙三著 岩波書店 2023) ID18953

『完全版 十字路が見える 4 北斗に誓えば』(北方謙三著 岩波書店 2023) ID18954

『語りと祈り』(姜信子著 みすず書房 2023) ID18981

『小津安二郎』(平山周吉著 新潮社) ID18982

『一気読み世界史』(出口治明著 日経 BP2022) ID18983

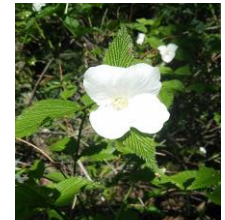


### 今月入庫の本から

勝手に新聞や書店の広告から選んで入れています。自分がいつかは読んでみたい本になりますこと、ご容赦を。

★『あかあかや明恵』は何故か明恵という人に惹かれてい

て読み始めて腑に落ちました。私が好きな京都榎尾の高山寺にゆかりの深い、そして初めて一人旅した和歌山にも馴染み深い人だったのです。なんでも自分と結びつける悪癖の西村です。★『パレードのシステム』と『花に埋もれる』は書店オススメでした。皆さんも関心あるのでは。★『キツネ狩り』はサスペンス好きのあの人の人に。★男性が先を競って読んでいる北方著『チングス紀16 蒼氓』は、愈々最終巻に近づき、17巻は7月刊行とか。同じ作者のエッセイ『完全版 十字路が見える』は4巻で完結。★今村翔吾の『茜唄』(上下)は、表紙の絵に。どんな新平家物語でしょうか。★外国文学2冊もちよいか。でも私は3冊目の手記『シベリアの森のなかで』に誘われます。そして1900年代終わりに行ったシベリア鉄道(ハバロフスク〜イルクーツク)を、バイカル湖で泳いだ連れ合い(あまりの冷たさに5m泳いで諦めた…)を心配したのを思い出し、連れ合いは即、ネットで探して、ロシア民謡「バイカル湖のほとり」を流してくれ読書の楽しみはいや増しました。★『鴨川ランナー』は文庫で好評でした。次なる『開墾地』は!!



花の写真: 上はやまぶきそう、下はシロヤマブキ(木) Sさんから。